

開放的な空間の中でスポーツと学びを誘うプロムナード  
「スポーツと学びのルート」

ルート方向性

- 対岸の町並みや、背後の田園風景を楽しみながら散策できるルート  
(心地よい風を感じながらウォーキングやジョギング、散策、サイクリングを楽しむ)
- 石巻専修大学や総合運動公園との連携によるネットワークの拡大と利活用の推進
- サイクリングやジョギング等の運動の利用を考慮した工夫(距離標や案内板)
- 一部、水辺利用や水面利用を考慮した工夫(釣りやボート等)

水辺の現況

- 石巻専修大学や石巻商業高校、総合運動公園が隣接。
- 石巻専修大学では漕艇部やカヌー一部の利用のため浮き桟橋を設置、サークル活動が行われており、大学構内には約650本もの桜が植えられており、隠れた桜の名所になっている。
- 近年、カヌー団体による旧北上川のカヌー利用(カヌー教室・カヌートレッキング等)が行われている。
- 周辺住民の日常の散策路として利用されている。



川沿いにある石巻専修大学の漕艇



旧北上川の浮き桟橋とカヌー利用

利活用方策

- 総合運動公園を出発点とし、開放的な空間の中で風を切って走るマラソン大会や、親子ウォークラリー等のイベントを検討



マラソン大会のイメージ



ウォークラリーのイメージ

- 石巻専修大学と連携しカヌーや大学構内の桜並木の利活用方策を検討。
- カヌー発着所を活用した、カヌー教室や水辺・川と親しむイベント等の開催を検討。



カヌー教室イメージ

- 水辺の緑を創出・管理するため、町内会等により水辺愛護会(仮称)を結成し、河川清掃や植栽管理を推進。



河川清掃イメージ

- 子どもたちが水辺を散策しながら旧北上川や水辺の環境などを学べるよう検討(散策イベントや看板など)
- 広域的なネットワークの移動を容易にするため、堤防をサイクリングロードとしても活用する(レンタサイクルの発着所を整備)
- 対岸のルートや拠点とのつながりを確保するため、イベント等において対岸との渡しの再現について検討。

ルートイメージ

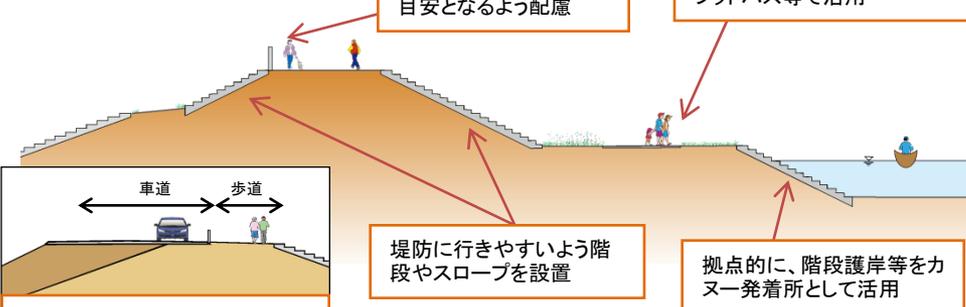
距離標を設置して現在位置がわかり、また歩く目安となるよう配慮

広い河川敷の中を散策できるフットパス等で活用

堤防に行きやすいよう階段やスロープを設置

拠点的に、階段護岸等をカヌー発着所として活用

※堤防等はイメージであり今後の検討によって変更があり得ます。



兼用道の部分は、堤防の天端を拡幅し、歩車道分離・ガードレール設置で安全性を確保

向  
実  
け  
現  
て  
に

- 国で整備する河川堤防と調整を図り、プロムナード計画に基づく施設の配置計画や利活用について、具体化を検討していく。
- 利用者・管理者等の中で施設や空間の利用ルールや管理区分等を調整していく。

拠点  
F  
拠点テーマ

水辺のレジャーも楽しめる防災拠点  
「旧北上川水辺広場」

拠点  
方向性

- 市街地を流れる旧北上川沿いとして、多くの人が集い、水辺と親しめるポイントとして拠点を形成。また洪水時は防災拠点としての機能も併せる。
- 拠点では、水辺を望みながら子どもたちが思いっきり走り回れる原っぱ、多様な年齢層の様々な活動の場、プロムナードの休憩スポットとして機能。

水辺の現況

- 津波による被害は比較的小さく、川沿いには住宅等が立地し、日常の散歩等として利用されている。
- 堤防の住宅側は、約6haもの広大な用地があり、現在は仮設住宅として利用されている。
- 堤防の河川側は、階段が整備されており、震災前には川開き祭りの花火大会会場として多くの人が集まっていた。



堤防の川側。階段が整備され、河川をゆっくり見ることができる



水際は広場やベンチが整備され、堤防天端は日常の散歩路として利用されている

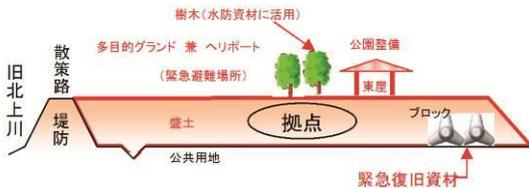


拠点箇所は現在仮設住宅が立地している

拠点イメージ

- 現在、仮設住宅として利用されていることから、今後のまちづくりとの整合を図りながら検討していく。
- 市街地を流れる旧北上川沿いには、多くの人が集い、水辺と親しめるポイントが少ないため、多目的グラウンド(芝生広場)として子供たちが遊び回れるような空間とする。
- 周囲よりも地盤が高くなることから、洪水等の緊急時においては、水害対応の指揮や地域住民の避難場所等として活用可能。また、当該地区は築山や建物等を設置することで、津波来襲時の一次避難所としての活用も可能。
- 石巻大橋から石井閘門までの散歩路(堤防上)では木陰が無いため、拠点に植樹して木陰を形成(樹木は水害時に水防対策として活用できる樹木を選定=水防資材)
- 人が集まるための駐車場も併設。

河川防災拠点整備イメージ



▼ 大規模災害発生時と平常時における防災拠点の機能

洪水等の緊急時には

- 水防情報の受信基地
- 土砂、ブロック等備蓄した資材による緊急復旧の拠点
- 地域住民の緊急避難場所
- 水防司令室
- 水防待機所
- ヘリポートによる緊急輸送

平常時には

- スポーツ、レクリエーションの場
- 河川等に関する情報発信の場
- 地域の方々とのコミュニティ施設
- 地域の野外活動の場
- 各種イベントの開催



利活用方策

- 多目的グラウンド(芝生広場)では、スケートボードやゲートボール場として活用するなど多様な年齢層に水辺での活動に利用。



スケートボードのパーティ, ゲートボール, 多目的広場の利活用イメージ

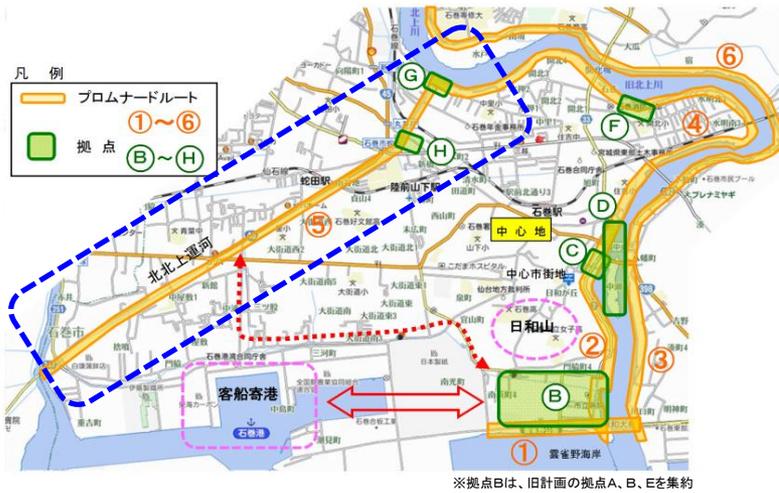
- オープンスペースを利用して、各種イベント等に活用。

実現に向けて

- 国の防災ステーション等整備事業と調整し、プロムナード計画に基づく施設設置や利活用について具体化を検討。
- 拠点計画地は、現在仮設住宅として活用されていることから、将来的なまちづくりとの調整を図りつつ検討していく。
- 利用者・管理者等の間で施設や空間の利用ルール、管理区分等を調整していく。

# 8. 北北上運河のルート、拠点、ポイント

## 北北上運河の位置



## 8-1 北北上運河のポイント

- 運河では、高校生によるボートやカヌーの練習、そしてNPOによる子供を対象としたボート体験が行われており、水面利用が盛んである。
- 大街道より南の運河では、津波により水辺の松が被災、多くの松が枯れている。
- 震災により堤防・護岸が被災しており、災害復旧が予定されている。
- 震災前には市民団体によるライトアップなどの活動により地域活性化に取り組んでいた。
- 運河交流館や石井閘門周辺は、中里川の憩いの広場があり、桜やツツジ等の花や、歴史的な施設である石井閘門が眺められる空間となっている。運河交流館は石井閘門の歴史なども学ぶことができるが現在休館中であり、石井閘門は老朽化や被災のため改修工事が予定されている。今後の利活用等は改めて検討の必要がある。



運河沿いの散策路は多くの人利用



運河ではボートやカヌーが盛ん



北北上運河の景観  
(震災により護岸や松が部分的に被災)



漕艇用の浮き棧橋



運河交流館(休館中)



石井閘門



中里川憩い広場



運河沿いの散策路



斜路でのボート利用



中里川憩い広場の滝(震災前)